

# 石神井池通信

～令和2年度かいぼり実施のお知らせ～

## 都立石神井公園 石神井池で「かいぼり」を行います。

昨年度よりお知らせしておりました石神井池の水質改善のための「かいぼり」を、令和2年度の冬に行うことになりました。

1月に水を抜き、その後2月下旬まで池底を干します。そして、3月下旬まで約1ヶ月間かけて、再び水を貯めていく予定です。今回のかいぼりに合わせ、部分的に護岸の補強や、ボート避けの柵の改修、外来生物の駆除やゴミの回収も行います。

### 《スケジュール》

2021年					
1月		2月		3月	
排水作業					
←→		←→ 池干し			
				→← 湛水作業	

## ～生きものの捕獲について～



水が抜けたら、池の生きもの（魚、カメ、エビなど）の捕獲を行います。生きもののうち、在来種は一時的に飼養し、再び水が貯った後に池に戻し、外来種は駆除します。なお、池の生きものの捕獲については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためボランティアの募集は実施せず、地元関係団体等にご協力頂きながら、作業を実施する予定です。

作業の見学は自由にできますが、マスクの着用、「三密」を避けるなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にご協力をお願いします。

### 外来種を駆除する理由

#### 在来種を食べてしまう

肉食性で在来種を食べてしまう外来種がいます。



#### 在来種の餌を食べてしまう

在来種が食べていた餌を食べてしまいます。



※ この他にも、在来種と雑種になってしまう、病気を持ち込んでしまうなどがあります。

外来種は現在の生態系に大きな影響を与えています。しかし悪いのは外来種ではなく、それを持ち込んでしまう人です。池に生きものや植物を放さないようにしましょう。

### 注意事項

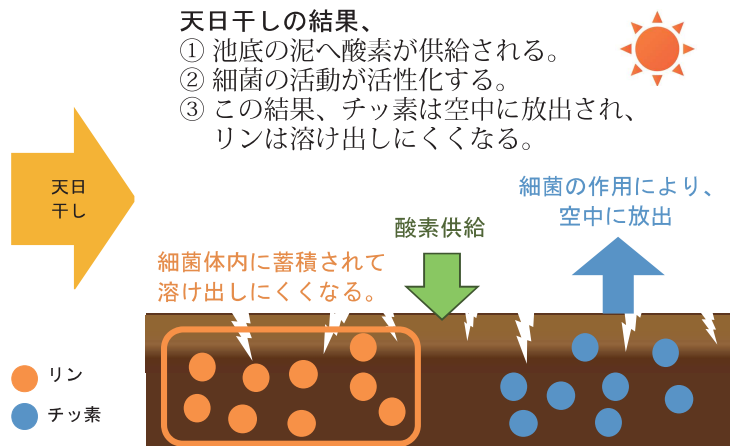
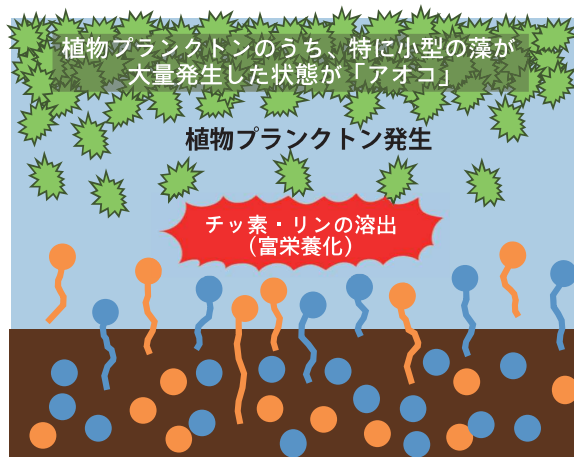
- ・水が引いても、池の底の泥は軟らかいため、立ち入ると足がはまって出られなくなることもあります。危険なので入らないようにしましょう。
- ・排水・池干し・湛水期間中はボート等の公園利用は出来なくなります。
- ・石神井池・三宝寺池では、釣りはご遠慮ください。

## かいぼりを行うとなぜ水がきれいになるのか

水中にチッ素やリンなどの栄養分が多く含まれている状態を「富栄養化（ふえいようか）」といいます。富栄養化が進むと、主に夏場に植物プランクトンが発生し、水が緑色ににごります。植物プランクトンのなかでも、特に小さい藻が大量発生した場合、「アオコ」と呼ばれる現象を引き起こします。アオコは悪臭の原因になり、見ためも良くありません。また、大量の小型の藻が、夜に水中の酸素（さんそ）を消費するので、水中が酸素不足になり、生きものが住めなくなります。アオコになる小さい藻のなかには生きものに有害な毒素（どくそ）を出す種もいます。

このように大きな問題となるアオコの原因は富栄養化ですから、チッ素やリンを取り除くことが有効な対策となります。チッ素やリンは池底の泥に含まれ、水に溶けだすことで富栄養化が起こります。池を干して、池底の泥を乾燥させると、細菌等のはたらきによって、チッ素は空气中に抜け出していき、リンは泥から溶け出しにくくなります。このように、池を干すことで水質の改善が期待できるのです。

### 植物プランクトンで水が緑色になった石神井池



## なぜ駆除するの？ ～コイとキショウブ～

### 【コイを駆除する理由】

「外来種」と聞くと、外国から持ち込まれた生き物を想像すると思いますが、日本国内に分布する動植物でも、他の地域から持ち込まれたものを「国内外来種」といいます。

コイは、本来はごく限られた地域にしか生息していませんでした。石神井公園のコイは「国内外来種」なのです。

コイは雑食性で食欲が旺盛な種であり、たくさん住んでいる池などでは、他の動植物が著しく少なくなる例が多くみられます。今回のかいぼりでは、石神井池のより多くの動植物を守るためにコイを駆除することとなりました。

### 【キショウブを駆除する理由】

春から初夏にかけて、鮮やかな黄色の花で水辺を彩るキショウブですが、ヨーロッパ原産の外来種です。非常に旺盛に繁茂し、水辺を一種のみで占拠している場所もみられます。公園内の水辺の在来植物種を守るため、一部の箇所では駆除作業を行うこととなりました。



コイ



キショウブ